

# jusque

田 中 善 英

## 1. はじめに

jusque に関する研究は比較的新しく、また、前置詞の中でも jusque は先行研究が少ない前置詞であると言ってよい。jusque 自体が持っていると考えられる意味は、HANSE (p. 541) が

Il marque la limite, le terme qu'on ne dépasse pas, dans l'espace ou dans le temps.

などと述べるように、「終点」「終了点」「最終到達点」といった概念であり、この点に関して異議はあまりないようであるが、問題は、その用法である。

問題点は大きく分けて2つある。1つは、前置詞と分析されることが多いにもかかわらず、次例のように後にもう1つ、場合によっては2つ前置詞をとることができる点である。

(1) Oui c'est direct *jusqu'à chez moi*. (ANGOT, *Rendez-vous*, tiré de Frantext<sup>\*1)</sup>)

(2) Je savais me débarbouiller toute seule, elle m'a quand même léchée et reléchée. *Jusqu'à dans* mes recoins les plus recoins. (FORLANI, *Gouttière*)

しかし、どんな前置詞であっても jusque の支配語とすることができるわけではない。

---

1) 今後、特記がない限り、実例は Frantext による。

- (3a) Quelques marches dans le sable mènent hors de la résidence universitaire *jusque vers* la vaste plage vertigineusement vide dans la violence du vent. (FOREST, *L'enfant éternel*)
- (3b) ?? Quelques marches dans le sable mènent hors de la résidence universitaire *jusqu'à vers* la vaste plage vertigineusement vide dans la violence du vent.
- (4a) La boue de la rizière colle aux jambes, aspire les pieds, elle se répand sur les mains, les bras, on en trouve *jusque sur* le front comme si on était tombé. (JENNI, *L'Art français de la guerre*)
- (4b) ?? La boue de la rizière colle aux jambes, aspire les pieds, elle se répand sur les mains, les bras, on en trouve *jusqu'à sur* le front comme si on était tombé. (JENNI, *L'Art français de la guerre*)

もう1つの問題は、*jusque*の品詞である。*jusque*が前置詞であるとする、前置詞が後にもう1つ前置詞をとることになるが、この矛盾をどう考えるか。

本稿ではこの2つの問題を中心に考えてみたい。

## 2. 先行研究

### 2.1. 古典的な文法書類における扱い

*jusque*のみを真正面からとりあげた研究はほとんどない。いわゆる文法書において前置詞は非常に軽く扱われることが多いが、*jusque*に関しては一言も言及されないことも珍しくない。

まずは、古典的な文法書類における扱いをみておこう。

WAGNER & PINCHON (1991, p. 477) は、場所の副詞（例えば *là* を伴って *jusque là*）や時の副詞（例えば *alors* を伴って *jusqu'alors*）が後続しない場合には、他の前置詞あるいは前置詞句としか用いられないとするが、この指摘が誤りであることは以下の例や、後掲の統計を見れば明らかである。

- (5) Le lendemain, Solange l'avait su par la bande, il n'est pas sorti, il a laissé Simon à l'hôtel, il a pris la voiture et il a filé seul *jusque Paris* [...] (TENENBAUM, *L'Ordre des jours*)

フランス語の前置詞研究における古典的研究書とも言える SPANG-HANSEN (1973) や、フランス語の文法事項を網羅的にとりあげた RIEGEL et alli (1994) には一切言及がない。TOGEBY (pp. 205-207) は、前置詞ではなく副詞とみなすが、用法に関する記述は、他の先行研究と大差ない。POISSON-QUINTON et alli (2002) では、用法に関する記述は一切ないが、索引にあがっている形は jusque ではなく jusqu'à である。

## 2.2. ILINSKI (2003)

ILINSKI (2003) は、前置詞とその支配語に関する詳細な研究で、jusque に限らず、複数の前置詞が連続して現れる様々な場合について分析している。jusque についてもかなり詳しく論じられており、jusque N という形はなく、名詞句と共に用いる場合には、jusqu'à N という形が必要であるとする。ただし、副詞的に用いることができる名詞句については、jusque N が可能であるとし jusque jeudi、jusque ce matin の例をあげる。しかしながら、Frantext では、jusque jeudi は皆無、jusque ce matin もわずか 1 例しか見つからなかった。

	jusque +	jusqu'à +
lundi	0	<b>69</b>
mardi	0	<b>38</b>
mercredi	0	<b>49</b>
jeudi	0	<b>39</b>
vendredi	0	<b>31</b>
samedi	0	<b>52</b>
dimanche	0	<b>61</b>

曜日名以外でも同様の結果である。

	jusque +	jusqu'à +
ce matin	1	<b>62</b>
ce soir	0	<b>152</b>
cette nuit	0	<b>18</b>
cette semaine	0	<b>0</b>

la semaine prochaine	0	<b>9</b>
ce mois	0	<b>2</b>
cette année	0	<b>17</b>

空間的な意味においても同じであった。

	jusque + N	jusqu'au / en + N
Angleterre	0	<b>15</b>
États-Unis	0	<b>4</b>
France	0	<b>19</b>
Italie	0	<b>16</b>
Japon	0	<b>16</b>
Pays-Bas	0	<b>2</b>
Portugal	0	<b>1</b>
Alsace	0	<b>2</b>
Bretagne	0	<b>7</b>
Corse	0	<b>1</b>

ところが、興味深いことに、Google を使って同じように調べてみたところ、Frantext の場合とは全く異なる結果が得られた。

	Frantext		Google	
	jusque +	jusqu'à +	jusque +	jusqu'à +
lundi	0	<b>69</b>	210	<b>211</b>
mardi	0	<b>38</b>	<b>214</b>	140
mercredi	0	<b>49</b>	<b>190</b>	135
jeudi	0	<b>39</b>	<b>170</b>	112
vendredi	0	<b>31</b>	<b>218</b>	141
samedi	0	<b>52</b>	<b>220</b>	138
dimanche	0	<b>61</b>	<b>170</b>	130

Frantext では 1 例も見つからなかった *jusque* + 曜日名の構造が、月曜日以外全ての曜日において、*jusqu'à* + 曜日名型よりも多くの実例が見つかった。曜日名以外の場合は、名詞により差が生じた。

	Frantext		Google	
	<i>jusque</i> +	<i>jusqu'à</i> +	<i>jusque</i> +	<i>jusqu'à</i> +
ce matin	1	<b>62</b>	<b>164</b>	149
ce soir	0	<b>152</b>	<b>132</b>	102
cette nuit	0	<b>18</b>	70	<b>137</b>
cette semaine	0	<b>0</b>	49	<b>90</b>
la semaine prochaine	0	<b>9</b>	<b>130</b>	120
ce mois	0	<b>2</b>	30	<b>140</b>
cette année	0	<b>17</b>	172	<b>330</b>

以上のことから、少なくとも、*jusque* + N 型と *jusqu'à* N 型の選択は、時代と共に変化していることが予想される。

	Frantext		Google	
	<i>jusque</i> + N	<i>jusqu'au</i> / <i>en</i> + N	<i>jusque</i> + N	<i>jusqu'au</i> / <i>en</i> + N
Angleterre	0	15	21	107
États-Unis	0	4	6	150
France	0	19	45	130
Italie	0	16	30	152
Japon	0	16	1	210
Pays-Bas	0	2	2	aux 144 en 1
Portugal	0	1	3	au 120 en 30
Alsace	0	2	5	140
Bretagne	0	7	14	134
Corse	0	1	10	130

空間的用法についても同じことが言え、Frantext では皆無であった *jusque* N 型がイギリス、フランス、イタリアなどにおいては着実に増えてきていると思われる。

### 2.3. LEEMAN (2005)

LEEMAN (2005) は、筆者が知る限り *jusque* のみについて扱った唯一の先行研究である。LEEMAN (2005) は、*jusque* が持つ意味について従来の考え方を批判し、伝統的なとらえ方では、

- (6a) Il est venu *chez* moi.
- (6b) Il est venu *jusque chez* moi.
- (7a) Il est allé à Paris.
- (7b) Il est allé *jusqu'à* Paris.

の差が説明できないとする。また、

- (8) Les hirondeelles migrent jusqu'en Afrique. (p. 109)

では、

- (9a) Avant de migrer, les hirondelles ne sont pas en Afrique; puis elles migrent; après, elles se retrouvent en Afrique.

の意味なのか

- (9b) Les hirondelles migrent et, arrivées en vue de l'Afrique (à la limite de l'Afrique), elles se reposent. (Elles ne sont donc pas en Afrique)

の意味なのか区別ができないとする。

前者の問題については、客観的事実はどちらの場合も同じことであろう。すなわち、

- (6a) Il est venu *chez* moi.
- (6b) Il est venu *jusque chez* moi.

では、どちらの文においても、il という人物が自分の家へ来たと考えられるし、

(7a) Il est allé à Paris.

(7b) Il est allé *jusqu'à* Paris.

では、il という人物がパリへ行ったことに違いはない。しかし例えば、jusque (jusqu')が入ったほうが、私の家あるいはパリまでの距離が遠い印象を与える可能性がある。

ツバメの例に関しては、このように解釈の差が生まれるのは jusque の場合に限ったことではない。パリの郊外に住む人、つまり住所表記上はパリ市民ではない人が、

(10) J'habite à Paris.

と言うことも（言ってしまうことも）珍しくない。

(11) Il faut reconnaître que la Défense, vue par exemple de la N118 quand on arrive à *Paris* par le sud-ouest, offre un spectacle très comparable à ce qu'on appelle aux Etats-Unis downtown skyline. (tiré de Google)

この例に表れている Paris も、厳密に言えばパリ市内ではない。

以上のように考えれば、jusque が持つ意味について従来の説を覆す必要はない。

### 3. jusque の支配語

ここでは、現代フランス語で日常的に用いられている 30 の前置詞について、jusque あるいは jusqu'à の後に続く実例がどのくらいあるかを調べた。コーパスは Frantext である。

	jusque	jusqu'à
à	- -	<b>3</b>

フランス文化研究

après	<b>210</b>	13
avant	<b>7</b>	5
avec	<b>2</b>	0
chez	<b>515</b>	40
contre	<b>7</b>	0
dans	<b>5297</b>	2
de	<b>18</b>	0
depuis	0	0
derrière	<b>37</b>	0
dès	0	0
devant	<b>118</b>	0
durant	<b>2</b>	0
en	<b>2983</b>	0
entre	<b>19</b>	0
envers	<b>1</b>	0
hors	1	1
jusque	0	0
malgré	0	0
outre	0	0
par	<b>104</b>	2 (par-delà)
parmi	<b>20</b>	0
pendant	<b>4</b>	0
pour	<b>5</b>	0
sans	0	0
sauf	0	0
selon	0	0
sous	<b>377</b>	0
sur	<b>1226</b>	1
vers	<b>435</b>	1
via	0	0



組み合わせとして実例がなかった、jusque depuis、jusque dès、jusqu'outre に関しては、意味上、jusque と組み合わせることによって矛盾が生じるからであろう。不在・除外を表す sans、sauf も jusque と組み合わせることで意味的に矛盾が生じると思われる。

jusqu'à + 前置詞で最も多かったのは chez であるが、これには chez という前置詞自体の特殊性も影響している。

(12) J'aime bien *chez moi*.

(13) Caroline Guiela Nguyen : son *chez soi* est notre *chez nous*. (tiré de Google)

(12)では chez moi が j'aime の直接目的語、つまり名詞句として働いているし、(13)では、所有形容詞の支配語になっていることからここでも名詞句として働いていることが明らかである。すなわち、他の前置詞と比べ、chez は名詞に近い性質があり、裏を返せば前置詞性とも言うべき性質があまりないと言える。このことから、chez の前に他の前置詞を補うことに抵抗が比較的小さいと思われる。

jusqu'à + devant, derrière, sous, sur, vers 等の実例はほとんど見つからなかったが、そもそも、à devant, à derrière, à sous, à sur, à vers といった組み合わせの実例もほとんど見つからず、1900 年以降に限れば皆無である。以下は 1774 年の例だが、これが唯一である。

(14) Ainsi, la distinction des sexes ou des genres ne fut pas bornée aux seuls objets animés, dans lesquels elle est si sensible ; elle s'étendit encore à *sous* ceux qui avoient quelque raport à ceux-là. (COURT DE GÉBELIN, (1774))

従って、jusque・à・sous の相性というよりは、à と sous の相性の問題もあろう。à は点のイメージを与えるが、devant, derrière, sous, sur, vers などは空間的広がり of the イメージを与えるため、この 2 つが矛盾してしまうためと考えられる。

一方で、jusqu'à はもはや、jusque + à ではなく 1 つの分離できないものになっていると思われる例：

- (15) Les Mbaya étaient divisés en trois castes; chacune était dominée par des préoccupations d'étiquette. Pour les nobles et *jusqu'à* à un certain degré pour les guerriers, le problème essentiel était celui du prestige. (LÉVI-STRAUSS, *Tristes tropiques*)

も見られた。

いずれにせよ、Frantext のデータに限れば、*jusque* + 他の前置詞 という組み合わせは *chez* を除けばあくまでも例外的なものであると言えよう。

#### 4. *jusque* の品詞

前置詞がついている名詞・代名詞は主語にならないはずだが、*jusque* / *jusqu'à* + 名詞 が主語や直接目的語となることがある。しかし、この点をはっきり述べている研究書は少ない。そのうちの 1 つ、GIRODET (1988, p. 426) は、*même* の意味で、主語にも直接目的語にもなることができると述べ、次の 2 例をあげる。

- (16) *Jusqu'à* ses amis l'ont abandonné.  
(17) Il connaît *jusqu'aux* plus petits villages de son pays.

このように、*jusqu'à* N が主語、そして直接目的語として機能できる以上、主語・直接目的語の定義を変えない限り、*jusque* を前置詞と分析することはできない。とすれば、一般的に用いられているフランス語の品詞分類では、*jusque* を副詞と定義するほかない。これは消去法によって導き出されたと言われても仕方ない。

またそもそも、伝統的な主語あるいは直接目的語の定義に問題がないわけでもない。例えば、

- (18) De 10 à 20 personnes sont venues.

この例において、動詞の一致から見ても明らかなように主語名詞は *personnes* だが、これに先行する *de* は前置詞としか考えられない。この *de* の用法に問題がないのであれば、

- (19) *Jusqu'à dix personnes sont morts en Allemagne et trois cas suspects d'intoxication alimentaire sont en cours d'investigation en France. (Le Monde, 18/05/2011)*

このような例における *jusqu'à* を特別視するのもおかしいとも言える。

一方で、フランス語の副詞をどうとらえるか、という問題もあろう。冠詞や動詞などと比べて、副詞と分類される語は極めて多岐に亘る。語順はおろか、その機能において大した共通点を見いだすことはできない。強いて言えば、何らかの意味を他の語・語句に添加する、という程度である。ただ、*jusque* を副詞と考えた場合、副詞でありながら名詞を修飾できるのか、という問題が残る。

従って、この問題は一種の *faux problème* であり、既存の枠組みでは解決できないものである。

## 5. 結論にかえて

小稿では、*jusque* が支配語としうる表現について考察を行い、時代とともにそれが変わりつつあるということを明らかにした。一般に前置詞とされる *chez* ではあるが、他の前置詞よりも名詞性が高く前置詞性が低いため、*jusque chez* あるいは *jusqu'à chez* という構成が用いられやすい。

*jusque* の品詞定義については、フランス文法で用いられている伝統的な品詞分類において、消去法で考えていっても解決できない問題であることを示した。今後は *jusque* 以外の、品詞定義に問題があると思われる語彙についても分析を行い、新たな提案を試みたい。

### 主要参考文献

- BORROT, A., DIDIER, M. & RISPAIL, J-L. (1991) : *Code du bon français*, Magnard, Paris.  
 GIRODET, J. (1988) : *Pièges et difficultés de la langue française*, Bordas, Paris.  
 ILINSKI, K. (2003) : *La préposition et son régime, Etude des cas atypiques*, Honoré Champion, Paris.  
 LEEMAN, D. (2005) : *La préposition jusqu*, in DENDALE, P. (éd.), *Le Mouvement dans la langue et la métalangue*, Université de Metz, Metz.  
 POISSON-QUINTON, S., MIMRA, R. & MAHÉO-LE COADIC, M (2002) : *Grammaire expliquée du français*, Cle international, Paris.  
 WAGNER, R. L. et PINCHON, J. (1991) : *Grammaire du Français classique et moderne*, Ha-

chette.

WEINRICH, H. (1989) : *Grammaire textuelle du français*, traduit par Gilbert DALGALIAN et Daniel MALBERT, Didier, Paris.